

人形劇の人形師の一生
を描く

たけ だ き の すけ

竹田喜之助 (大正12年(1923)～昭和54年(1979))

竹田 喜之助 (本名 岡本隆郎 (おかもと たかお))

大正12年6月27日、岡山県瀬戸内市邑久町豊安の呉服商、大店の長男として生まれた。子どもの頃から文楽が好きで義太夫をうなり三味線を器用に弾いた。一方絵画にも堪能で幅広い趣味の持ち主だった。岡山第一中学校(現朝日高校)から第六高等学校(現岡山大学)を経て、東京帝国大学(現東京大学)工学部航空工学科へ。昭和25年3月結城孫太郎(後の竹田三之助一座)の公演に魅せられて人形劇にとりつかれ、一座に入座。結城系城三を名乗り、人形師の道を歩み始めた。昭和30年4月竹田人形座となり、竹田喜之助となる。300年の伝統を持つ竹田人形芝居をふまえながら、人形のからくりや、使用材料に画期的な工夫を凝らし、旧来の人形に新しい生命を吹き込み、どの人形も彼の優しく、温かく、厳しい人柄を映し出し、見る者に深い感動を与え、多くのファンを生む。

「喜之助人形劇フェスタ市民実行委員会 HP」より

喜之助人形劇フェスタ [瀬戸内市]

「喜之助人形劇フェスタ市民実行委員会」により、人形師・竹田喜之助の偉業をたたえて、全国から糸操り人形劇団などプロ団体、アマチュア団体(地域サークル劇団を含む)らが公演。祭典の2日間、瀬戸内市中央公民館を主会場として、夢あふれる多彩なステージが終日繰り広げられる。

参考:「喜之助人形劇フェスタ市民実行委員会 HP」



瀬戸内市の風景

2022年4月撮影

岡山一中・朝日高校の後輩の皆さんへ。

私の作った人形たちに、学校祭で出番を与えてくれてありがとうございます。

邑久町の千町平野が私の故郷です。絵が好きでした。書も書いていました。

少し足を延ばせば、牛窓の穏やかな海へも行けました。

「空に吸われし十五の心……人並みの夢を見ていた少年の私でした。」

これは、没後十六年目に喜之助が天国から後輩宛てに送った挨拶状の書き出しである。もちろん、彼自身のものではない。あの鬼若の発注元の男が代筆した。